

実習を通して感じたこと

自治医科大学 中谷沙也佳

2018年4月3日から6日の4日間、ひばりクリニック・かいつぶり・うりずんで実習をさせていただきました。短い期間ではありましたが、在宅医療の現状や課題、医師としてのあり方など、非常に多くのことを考える貴重な機会となりました。その中の一部ではありますが、私が感じたことを書かせていただきたいと思います。

今回の実習でもっとも印象に残っているのは、どのご利用者さまも、医師などスタッフの皆さまに会うことを楽しみにされている様子だったことです。その理由の一つに、ご利用者さまに向き合う姿勢があると思います。スタッフの皆さまは、誰に対しても分け隔てなく笑顔で話しかけておられ、そういった雰囲気が「話したい」「また来たい」という気持ちにつながっているのではないかと感じました。いつも同じ暖かい雰囲気があることで、ご利用者さまに安心していただくことができると思います。誰にでも、忙しかったり辛いことがあったりと余裕がない時はあると思いますが、その中でも平常心でいることを心がけていきたいと思いました。

また診察では、ご利用者さまだけでなくご家族の様子も気にかけておられました。実際に訪問させていただくと、ご利用者さまの介護を高齢の方がお一人でされていたり、障がいを持つお子さまがいらっしゃる家庭ではご兄弟への配慮が必要であったりと、数々の課題が垣間見えました。これらのことは、外来でお話を伺うだけでは計り知れないものであり、「実際に見て、知る」ことの大切さを学びました。在宅医療を適切に行うためには、ご本人さまの体調はもちろん、ご家族の介護力を知り、サポートすることも重要であり、「家族を診る」ことが具体的にどういうことを指すのかを実際に見ることができました。また、在宅医療ではグループホームの職員や訪問看護師、ケアマネージャーなどと連携をとり情報共有することが大切です。しかし、お看取りについてなど最重要な情報でも、関わる人が多くなるほど全員が同等に理解することが難しく、延命治療は希望していなかったが救急車を呼ばれてご本人やご家族の希望通りにいかなかったこともあるというお話を伺い、在宅医療の難しさを知りました。

うりずんでは、障がい児・障がい者の皆さまがどのような生活をされているのかを知ることができました。人工呼吸器を利用されている方の移動支援に同行させていただいた時は、ベッドからの移動や、外出時に必要な物品の準備などを実際に見て、外出するということがどれだけ大変なのかを思い知りました。また、日中一時支援などの見学では、

移動や食事介助、吸引管理などにどれだけ人手と時間がかかるのかを知りました。このような外出しづらい状況ではどうしてもお家で過ごす時間が長くなってしまい、ご家族の負担が大きくなってしまいます。うりずんを利用することで、その間ご家族は介護からひと休みすることができるのです。さらに、うりずんは、ご家族のレスパイトケアという役割はもちろん、ご利用者さま本人が楽しみながら様々な経験ができる環境づくりという役割も担っていました。仮設のコーヒーショップを作ってみんなで飲んでみたり、一緒に歌を歌ったり、道の駅までおでかけしたり…。すべての場面において、医療的ケアが必要な方でも楽しく安全に一日を過ごすことができるような様々な工夫がなされていました。このような配慮が徹底されているからこそ、ご利用者さまやご家族に、安心して利用していただける信頼関係を築くことができるのだらうと思いました。このように充実した施設を作り、維持していくことは、想像できないほど大変なことであると思いますが、今後このような施設が普及していくことを願っています。

かいつぶりでは、病児保育の様子を見学させていただきました。近年は女性も働く時代であり、事情があって仕事を休めない保護者のためにはこのような施設の存在はどれほどありがたいことかと思いました。一方で、利用者の変動が大きいことなどから安定した収入を得られず経営が難しかったり、異なる感染症のお子さまがいれば部屋の数までしか受け入れられなかったりなどの厳しい現実も知りました。今後は、共働きの家庭は増えると思われそうですし、勤務先で簡単に休みが取れるような時代になるのはいつになるか見当もつきません。今後、働きながら子育てしやすいような環境を整えば良いなと感じました。

四日間という短い期間ではありましたが、この実習で将来自分がどのような医師になりたいのか、在宅医療における課題はどんなことがあるのかを考えるきっかけとなりました。また、不自由なく生活し、やりたいことをできる自分が、どれだけ恵まれているのかを実感することができました。うりずんのご利用者さまやご家族は、誰のせいでもないのに、自由に外出することができなかったり、自分のやりたいことができなかったりという状況で毎日を過ごされています。そんな中でも、その状況に向き合いながら、日々できることを一生懸命しておられる姿がとても印象的でした。些細なことで悩んだり立ち止まってしまうことはたくさんありますが、自分の置かれている状況に感謝して、「自分にできることをしよう」という思いが強くなりました。

最後になりましたが、この実習にあたりお世話になりましたすべての皆様に、感謝いたします。ありがとうございました。